

I 研究主題名：

主体的に自分の考えや気持ちを表現できる児童の育成

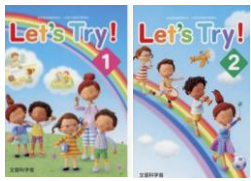
～外国語を用いたコミュニケーションを楽しむ活動の工夫を通して～

II 研究主題設定の理由

これまでの外国語活動・外国語科の授業を通して、本校の児童は、積極的に英語表現を聞いたり、基本的な表現を使って質問したり答えたりすることができるようになってきた。その一方で、英語を用いて自分の考えや気持ちを表現することに苦手意識を持つ児童やコミュニケーションをとること自体を楽しむことができない児童がいる。そこで、外国語活動・外国語科において、教師が外国語を用いたコミュニケーションを楽しむ活動を工夫することで、児童がコミュニケーションの楽しさや大切さを実感し、主体的に自分の考えや気持ちを表現できるようになるのではないかと考え、本テーマを設定した。

III 学年・領域

6学年では「Junior Sunshine 6」、5学年では「Junior Sunshine 5」、3、4学年では「Let's try」、各出版社の年間指導計画、1、2学年では、市の提供する年間計画を基に指導を進める。

<p>1, 2年の指導内容</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・あいさつ、自己紹介</li><li>・天気、曜日、数</li><li>・果物や野菜</li><li>・体の部位</li><li>・気持ち</li><li>・色や形</li><li>・動物や昆虫</li><li>・行事</li></ul>	<p>Let's Try!1,2</p> 	<p>Junior Sunshine 5, Junior Sunshine 6</p> 
---	---	--

IV 各学年の取り組み

1 1学年の取り組み (Topic: Colors)

「Colors」の学習では、これまで学んだ色や What color do you like?の質問など、実際に友達にインタビューを行いながら、コミュニケーションの中で英語表現に慣れ親しんだ。単元の後半では、「Junken Race」などを通して、これまでに学習した色や質問の表現を使って友達と助け合い楽しみながらコミュニケーションを行う様子が見られた。1学年は全単元を通して、歌やダンス、ALTやHRTとの会話や活動を通して、楽しく活動に取り組んだ。(写真1、2)



## 2 2学年の取り組み「Christmas」

2学年は、歌やゲーム、各行事のクラフト作り、クイズ大会などで英語を使ったコミュニケーションを楽しんだ。各単元では、習った英語を全体で練習した後、楽しく活動できるようにクイズやゲームなどを通してアウトプットする機会を設け、体を動かしながら楽しくコミュニケーションが取れるように工夫した。ALT や HRT、また児童同士のコミュニケーションでも、お互いに助け合いながら相手の話を聞こうと楽しんで活動に取り組むことが出来た。(写真3、4)



写真3 ALT と児童のやり取り



写真4 HRT とのやり取り

## 3 3学年の取り組み (Let's Try Unit9 「Who are you?」)

Who are you?の単元では、十二支の名前やその他の動物の特徴などのクイズを最終ゴールに取り組んだ。単元導入時にはALT や HRT からのクイズで英語表現のインプットを行い、単元後半にはこれまでに習った色や形容詞を活用して友達と動物紹介に関する英語でのコミュニケーションを楽しんだ。また、動物のヒントクイズを出す際には、グループで ICT を活用しながら、英語でのクイズを出し合ったり、学級全体での発表を楽しんだ。(写真5、6)



写真5 ICT を活用したクイズ

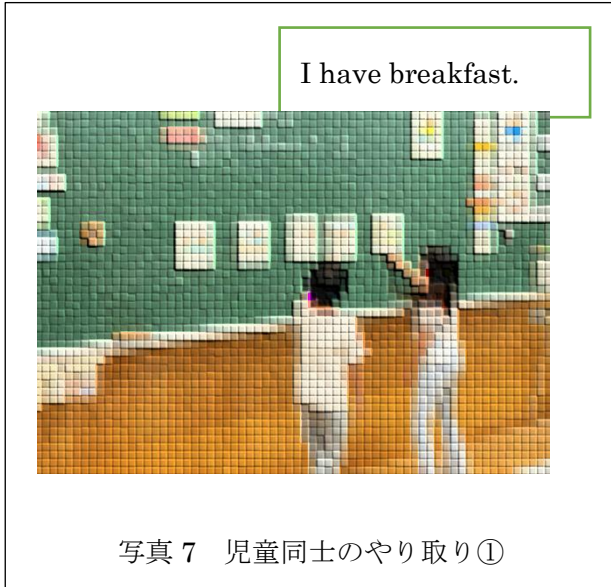


写真6 クイズを出し合うやり取りの様子

4 4学年の取り組み (Let's try2 Unit9 「This is my day. ぼく・わたしの一日」)

「This is my day.」の学習では、自分の一日についての表現に慣れ親しんだ。ALT と HRT の例を参考に、様々なペアでコミュニケーションを楽しみながら活動に参加する姿が見られた。また、友達とのやり取りで自信をつけた児童は、電子黒板で自分の日課に関するイラストなどを紹介しながら堂々と発表するなど、毎単元で楽しみながら英語表現に慣れ親しむことが出来た。

(写真7、8)



5 5学年の取り組み (Lesson 8 「My Hero 」)

学年の前半では、自分の好きなことや得意なことなど、自分自身の紹介をしてきた5学年は、後半で他者を紹介する「My Hero 友達に身近なマイヒーローを紹介しよう」を行った。身近な家族や友達、先生など身近にいる自分を支えてくれているマイヒーローの存在に気づくだけでなく、コミュニケーションや発表を通して、クラスの一人ひとりにもそれぞれ大切なマイヒーローの存在がいることにも気づき、聞き手の聞き方においても成長する姿が見られた。また、ICTを活用し、コミュニケーションする際に必要な英語表現を自分で選択して単語の発音練習をしたり、表現をチャンツで練習したり、自己表現を広げる学習選択を行いながら、英語の表現を増やすことが出来た。(写真9、10、11)。

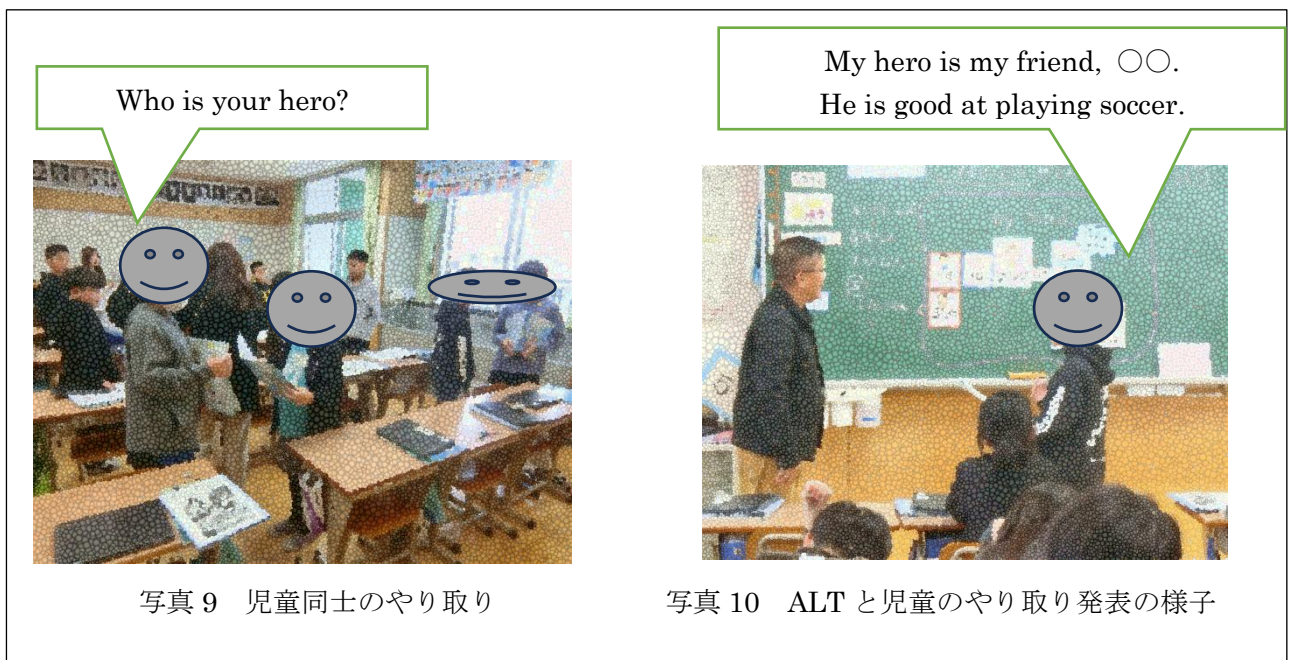




写真 11 ICT を活用した表現練習

## 6 6 学年の取り組み

毎単元、導入時に単元の山登りを児童と共有し、相手意識を持つことが出来るようなゴールを設定することで一人ひとりが意欲的に取り組めるように取り組んだ。単元の前半では既習事項や新しい英語表現を学び、インプット・アウトプットの機会を増やし、中間指導を通してどのような表現が相手に伝わりやすいか全体で共有、困り感を解決しながら英語での表現を増やしていく取り組みを行った。また、単元の後半ではアウトプットの時間を増やすと同時に、既習事項をどのように表現するか思考錯誤しながら友達とコミュニケーションを楽しむ様子が見られた。相手意識という点では、Lesson5 Where do you want to go?で他クラスとの交流を行うことで、話し手だけの力ではなく、聞き手のリアクションや聞き方などでもコミュニケーションの内容が変化することに気づき、話す側だけでなく、聞き手側のコミュニケーションの取り方も相手意識を持つことで変化した。Lesson6 My Best Memory, Lesson7 My Dream, そして Lesson8 “My Junior High School”.では、これまでに習った英語表現を活用し、自分が一番言いたいことを伝えるために与えられた順番ではなく、話す順番を工夫したり、相手の工夫に気づくことでさらに自己の表現を修正するなど、自己の成長につなげようと積極的にコミュニケーションに参加する児童の様子が多く見られた。(写真12、13)



写真 12 他クラスへ発表



写真 13 他クラスへ発表

## V 成果と課題

### 1 成果

- (1) 授業のスタート時に HRT や ALT と天気や曜日、日付について毎日のルーティンとして行っているが、質問の順番を意図的に変えてみたり、別の日にも様々な曜日などに触れることが出来るよう HRT の学級への声掛けの工夫のおかげで、どの児童も単なる繰り返しにとどまらず、英語でのコミュニケーションを楽しむ様子が見られた。
- (2) 児童がコミュニケーションを楽しめる工夫として、授業のスタートや単元を通して ALT や HRT との教師同士の会話や ALT(または HRT)と児童のコミュニケーション、教師自身がコミュニケーションを楽しんでいる姿を児童に見せたあと、児童同士のコミュニケーションを取り入れることで、自分の気持ちを表現することが苦手な児童もコミュニケーションを楽しめるように取り組めた。
- (3) ALT と担任とのミーティングを毎週設定しており、担任と学級の様子を相談しながら授業展開を計画することが出来た。また、授業の中でも ALT と担任の役割が相談されており、それぞれの特性を活かした指導や授業展開を行うことが出来た。
- (4) 5・6年生では、伝える相手を明確にしたファイナルゴールやパフォーマンステストの課題を提示することで、相手意識をもって会話活動に積極的に取り組む児童が多かった。
- (5) 高学年では、発表前に自分が言いたい内容を整理し、話す順番や伝え方を工夫する時間を設けることで、定型文ではなく、習った英語表現を自分なりに工夫しながら伝えたい内容や表現したいことを相手に伝えようと楽しく英語でのコミュニケーションに取り組む児童が増えた。
- (6) 中学年・高学年においては、毎時間ワークシートやタブレット端末を用いてめあてと振り返りを記入し、振り返り時間を設けることで自己評価をすることが出来た。また、高学年では、毎時間授業に対する個人のめあて（マイゴール）を設定し、自分が設定したマイゴールに向けて出来たことや新たに出た課題を記入することで、次の時間に向けた自己の成長につなげることが出来た。

### 2 課題（改善策）

- (1) 高学年の単元の中では、自分の思いや気持ち、自分自身について相手に伝える活動や単元が多いため、自分の気持ちを表現することに苦手意識を持つ児童もいる。学級担任と連携した支援で学級の中でも自分自身と向き合う時間を設ける工夫や、コミュニケーション時のペア活動の工夫の継続が必要である。
- (2) 普段あまり話したことの無いペアでの言語活動になったときに、コミュニケーションに躊躇してしまう児童もいる。その際、英語の表現を使ったコミュニケーションを行う意味や目的に気づかせる教師側の声掛けや、コミュニケーションの中で自分と違う意見や共通の意見に出会ったときの感想を全体で共有することで、もっと相手のことを知りたいと思える言語活動につながるよう、ことばとことばのやり取りの大切さに気付かせたい。

## VI 外部評価

学校運営協議会委員による授業参観と評価

- ・授業を参観して、英語専科と ALT で指導していることで、レベルの高い学びになっていると感じた。
- ・授業の中で、英語を使って会話をキャッチボールで答えられていた。自分が中学校の時よりレベルが上だと思った。
- ・英語での文章量も多く、夢・目標を英語で話していたり、タブレットを使ってのプレゼンを英語で行ったりしていて素晴らしい。
- ・小学校の英語において、リスニング力がついていて、中学校で受ける英検の土台になっていると感じ

た。

- 1・2年からも英語の授業を行っており、置いていかれる児童もいなくて、いきいきと表情豊かに授業を行っていて、とても良いと思う。